

授業科目名	演劇教育入門	担当教員	平田 知之 石井 路子
必修の区分	選択		
単位数	2単位		
授業の方法	講義		
開講年次	2年第3クォーター		
講義内容	演劇教育には、演劇そのものの教育（芸術の教養として、専門家養成として）と、演劇を活用した教育がある。本授業では、主に後者について、演劇が教育とどのように結びついているのか、わが国の教育実践例を中心的に体験的に理解する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会のさまざまな現場で、演劇がどのように取り入れられているのかを、体験的に理解する。</li> <li>・演劇的なものの見方、考え方が、教育にどのように有効なのかを、言語や身体を用いて、実践的に説明できるようになる。</li> <li>・学校、観光、医療、介護の現場など、さまざまな場所で演劇を活用できる応用力を身につける</li> </ul>		
授業計画	<p>毎回、前半に石井がワークショップ、後半に平田知が講義を行う予定（この校正については変更の可能性あり）</p> <p>（石井）</p> <p>第1～5回 アイスブレイクを体験する。 第6回 アイスブレイクを考察する。 第7～11回 アイスブレイクをファシリテーションする。 第12回 まとめ</p> <p>（平田知）</p> <p>第1回 演劇教育と応用演劇（この授業での「演劇教育」の仮定義） 第2回 日本の「演劇教育」の現場（1） 実演家団体がつくる現場 第3回 同（2） 公共劇場がつくる現場 第4回 同（3） NPO 団体がつくる現場 第5回 同（4） 小学校の現場 第6回 同（5） 中・高等学校の現場 第7回 応用演劇を仕事にするための基礎技術（1） アクティビティとプログラム 第8回 同（2） ファシリテーションとは何か 第9回 同（3） リフレクション 第10回 同（4） コーディネーション 第11回 日本の「演劇教育」概史 第12回 海外の「演劇教育」概説</p>		
事前・事後学習	講義で毎回配布されるテキストを事前に読んでくる 講義の指示に従い、小レポートを作成する		
テキスト	各回の授業において資料を配付する		

参考文献	『高校生が生きやすくなるための演劇教育』（いしいみちこ, 2017, 立東舎） 『ファシリテーションとは何か』（井上義和、牧野智和編, 2021, ナカニシヤ出版） 『ワークショップ』（中野民夫, 2001, 岩波文庫） 『ドラマ教育入門 — 創造的なグループ活動を通して「生きる力」を育む教育方法』（小林由利子、中島裕昭、高山昇、吉田真理子、山本直樹, 2010, 図書文化社）
成績評価の基準	平常点（ディスカッションやプレゼンテーションへの参加、リフレクションシート）60% レポート40%
履修上の注意 履修要件	
実践的教育	該当しない。
備考欄	